

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-36043

(P2003-36043A)

(43)公開日 平成15年2月7日(2003.2.7)

(51)Int.Cl.⁷

G 09 F 17/00

識別記号

F I

テーマコード*(参考)

G 09 F 17/00

D

審査請求 未請求 請求項の数3 O.L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2001-224602(P2001-224602)

(71)出願人 595094828

株式会社田原屋

東京都台東区元浅草1-5-3

(22)出願日 平成13年7月25日(2001.7.25)

(72)発明者 鈴木 吉衛

東京都台東区元浅草1丁目5番3号 株式
会社田原屋内

(72)発明者 田原 繩

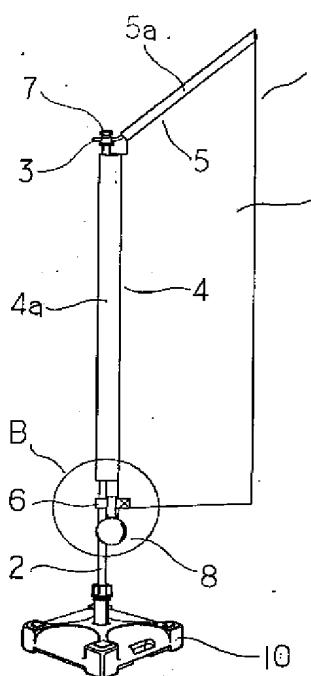
東京都台東区元浅草1丁目5番3号 株式
会社田原屋内

(54)【発明の名称】幟旗

(57)【要約】

【課題】風に煽られても、幟旗体が捲き上がることなく、組立が容易な、幟旗を提供する。

【解決手段】本発明は、幟旗体1の側縁部4が筒状に縫製され、この側縁筒状部4aに縦竿2を挿通しているので、幟旗体が強風に煽られても、見苦しく捲きあがることはない。更に、錘体(吊り輪付)8を幟旗体1のチチに付加し、その錘の自重によって捲きあがりを防いでいる。また、錘体(吊り輪付)8の輪部8cにチチ6を通すので、使用中錘体(吊り輪付)8が外れることがなく、飛散及び盗難の恐れもない。また、錘体(吊り輪付)8に緩衝部を設けたので、幟旗を使用中に、錘で、人や、商品を損傷することはない。また、マグネットの自重で捲き上がりを防ぎ、かつ錘体の脱落を防いでいる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】幟旗体の内側縁部の上部を筒状に縫製してなる側縁筒状部及び幟旗体の内側縁部の下部に縫着したチチを具備し、輪部を形成する布製帶状の保持部材と、金属製錘部材と、よりなる錘体の前記輪部を前記チチに遊着してなる幟旗にあって、前記側縁筒状部を幟旗体の捲れ上がり防止の第1の手段とし、前記錘体を捲れ上がり防止の第2の手段とすることを特徴とする幟旗。

【請求項2】前記錘体は、錘部材の全週を、緩衝材によって包囲してなる緩衝部と、前記緩衝部を、包装材によって包装してなる包装部と、前記包装部に接合してなる吊り輪と、を有する請求項1に記載の幟旗。

【請求項3】請求項1に記載の幟旗において、前記保持部材は、2個の錘部材を連結する布製帶状であり、前記錘部材は、マグネット材である錘体を有し、片方の前記錘部材を、挿貫したチチを有することを特徴とする幟旗。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、広告宣伝用に用いられる幟旗に関する。詳しくは、幟旗が、強風で煽られたときに、幟旗体が旗竿の上方にむかって、捲れ上がるのを防止した幟旗に関するものである。

【0002】

【従来の技術】幟旗を屋外において使用する場合、風に煽られて幟旗体が捲れ上がっている光景をしばしば見受ける。掲示用としては、視認性が劣るばかりでなく、整然とした美的感が損なわれる。この捲れ上がりを防止するための工夫は多数なされている。例えば、特開平10-20820号公報は、着脱自在の保形用錘を付加した幟旗を提案している。この提案は、保形用錘が、着脱自在であるが故に、脱落、いたずらのおそれがないとはいえない。特開平8-221019号公報は、チチに直接錘を付加した幟旗を提案している。この提案は、収納時に、かさばる等の不便さが残る。登録実用新案3036550号公報は、チチに挟んだり、ピンで止めたりする固定手段を提案している。この提案も、幟旗の収納時に、かさばる等の不便さが残る。また、いずれも錘体を付加して捲き上がりを防いでいるが、錘体の付加のみでは充分とはいえない。

【0003】また、意匠登録第1042734号公報によれば、幟旗体の側縁部を折り返し、筒状部を形成し、その筒状部に縦竿を挿通する幟旗があるが、その筒状部を利用するのみでは、捲れ上がりを防止するには充分とはいえない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、従来技術の有するこれらの問題点に鑑みなされたもので、その課題とするところは、風に煽られても、幟旗体の捲れ上がりがなく、組立が容易で、掲示中に構成部品が簡単に脱落せず、盗難のおそれのない、かつ、幟旗の周辺の人々に危

2

害を加えることなく、展示中の商品に損傷を加えない、幟旗を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために創案された請求項1に記載の技術手段は、幟旗体の内側縁部の上部を筒状に縫製してなる側縁筒状部及び幟旗体の内側縁部の下部に縫着したチチを具備し、輪部を形成する布製帶状の保持部材と、金属製錘部材と、よりなる錘体の前記輪部を前記チチに遊着してなる幟旗にあって、前記側縁筒状部を幟旗体の捲れ上がり防止の第1の手段とし、前記錘体を幟旗体の捲れ上がり防止の第2の手段とすることを特徴としている。

【0006】請求項2に記載の技術手段は、請求項1に記載の幟旗において、錘と、吊り輪と、緩衝部と、包装部と、を有し、前記緩衝部は、錘の全週を、緩衝材によって包装してなり、前記包装部は、前記緩衝部を、包装材によって、包装してなり、前記吊り輪を、前記包装部に接合してなる錘体（吊り輪付）を有することを特徴としている。

【0007】請求項3に記載の技術手段は、請求項1に記載の幟旗において、前記保持部材は、2個の錘部材を連結する布製帶状であり、前記錘部材は、マグネットよりなる、錘体を有し、片方の前記錘部材を、挿貫したチチを有することを特徴としている。

【0008】

【発明の実施の形態】図1は、本発明による、錘体（吊り輪付）を装着した幟旗の完成斜視図である。図2は、本発明を、各種の幟旗体に適応した幟旗の部分図である。図3は、錘体（吊り輪付）の正面図及び断面図である。図4は、図1のB部拡大図であって、チチを、輪部に、遊貫した図である。図5は、錘体（マグネット付）を装着した幟旗の完成図である。図6は、錘体（マグネット付）の斜視図である。図7は、図6の部分ずである。図8は、図5のC部拡大図であって、チチに、錘体（マグネット付）の片方を挿貫した図である。以下図によって詳述する。

【0009】図1において、幟旗Aは、幟旗体1と、縦竿2と、横竿3と、錘体（吊り輪付）8と、台座11と、よりなる。幟旗体1は、縦長であって、幟旗体1の内側縁部4の上部に側縁筒状部4aと、幟旗体1の内側縁部4の下部にチチ6と、幟旗体1の上縁部5には上縁筒状部5aと、を有する。

【0010】幟旗体1の内側縁部4の上部は、幟旗体1の下縁部から100mm以上の内側部分であって、筒状に縫製され、側縁筒状部4aを形成する。前記側縁筒状部4aの直径は、縦竿2の外径の最大値を約10%を超える程度とする。幟旗体1が風によって煽られたとき、前記側縁筒状部4aは、幟旗体1の捲れ上がりを防ぐ効果がある。幟旗体1の内側縁部4の下部は、幟旗体1の下縁部から約100mm以下の部分であって、この部分

50

には、筒状の縫製ではなく、非筒状部とし、幟旗体の任意の位置に、チチ6を縫着する。

【0011】幟旗Aの組立順序は、まず、前記チチ6を、前記錘体(吊り輪付)8の輪部8cに貫通してチチ6aの状態とする。図4は、前記チチ6を前記輪部8cに、遊貫した図である。次に、前記上縁筒状部5aには横竿3を挿通し、前記側縁筒状部4a及び前記チチ6aには縦竿2を挿通する。前記チチ6に、錘体(吊り輪付)8が脱落不能に吊り下げられるので、脱落、盗難、いたずらの被害を防ぐことが出来るばかりでなく、幟旗体1は、錘体(吊り輪付)8の自重で捲き上がりを防ぐ効果がある。次に前記横竿3は前記縦竿2の上端部において、係止金具7で係止し、最後に、縦竿2を台座11に固定する。

【0012】本発明は、種々の形態に適用出来る。その状態を、図2によって示す。図2(a)は、斜め上方に傾斜した上縁筒状部5aと、内側縁部4には側縁筒状部4aと、を有し、下縁部が三角形に切り落としてある幟旗体1aに、錘体(吊り輪付)8を装着した実施例である。図2(b)は、斜め上方に傾斜しかつ下方に湾曲した上縁筒状部5aと、内側縁部4には側縁筒状部4aと、を有し、下縁部が円形に切り落としてある幟旗体1bに、錘体(吊り輪付)8を装着した実施例である。図2(c)は、上縁筒状部5aが水平であって、内側縁部4には側縁筒状部4aを有し、下縁部が三角形に切り落としてある幟旗体1cに、錘体(吊り輪付)8を装着した実施例である。

【0013】図3によって、請求項2を詳述する。図3(a)は錘体(吊り輪付)8の正面図であり、図3(b)は、図3(a)のAA断面図である。錘体(吊り輪付)8は、錘部材8aと、保持部材(吊り輪)8bと、緩衝部8eと、包装部8dと、を有する。錘部材8aは、重量約60gの金属材で、形状は、円盤状であり、大きさは、直径約40mm、厚さ約7mmである。緩衝部8eは、ポリウレタン等の部材によって、錘部材8aの全週を包囲してなり、周囲の人、商品に対してクッションの役割を担う。包装部8dは、布製であり、緩衝部8eを包装してなる。保持部材(吊り輪)8bは、布製であり、巾約25mm、吊り輪部分の長さ約35mmで、両端末は、錘部材8aの包装部8dの縫着部分8fにおいて縫着され、輪部8cを形成する。前記錘体(吊り輪付)8を、請求項1に記載の幟旗に適用した場合において、幟旗が風に煽られたとき、錘体(吊り輪付)8が振れても、人や商品に損傷を与えることがない。

【0014】なを、前記緩衝部8eの部材は、包装部8dに内張されて、包装部8dと一体としてもよく、錘8aの重量は、約60gに限定されるものではなく、幟旗体の大きさによって定められるものである。錘8aの形状は、円盤状に限定されることではなく、球形でもよい。

【0015】図6(a)は、錘体(マグネット付)9の斜視図である。錘部材9a1,9a2は、直径約40mm、厚さ約7mm、重量約60gのマグネットで、形状は、円盤状などである。保持部材9bは、巾約25mm、長さ約70mmで、布製帶状であり、両端末は、錘部材(マグネット)9a1,9a2に接着又は螺着される。錘部材(マグネット)9a1,9a2の重量は60gに限定されるものではなく、幟旗体の大きさによって定められるものである。重量を増加したい場合は、別途10一対のマグネット片を錘部材(マグネット)9a1,9a2に接着又は螺着する。保持部材9bは布製帶状に限定されないが、錘部材(マグネット)9a1,9a2が固着可能の材質、形状であればよい。

【0016】図7(a)は、図6(a)の錘部材(マグネット)9a1の部分側面図であり、錘部材(マグネット)9a1は、保持部材9bに、接着剤9cで接着される。

【0017】図6(b)は、錘体(マグネット付)10の斜視図である。錘部材(マグネット)10a1,10a2は、直径約40mm、厚さ約7mm、重量約60gのマグネットで、形状は、円盤状などである。保持部材10bは、直径約1mm、有効長さ約70mmで、銅線製であり、両端末は、錘部材(マグネット)10a1,10a2に巻着される。錘部材(マグネット)10a1,10a2の重量は、60gに限定されるものではない。

【0018】図7(b)は、図6(b)の錘部材(マグネット)10a1の部分側面図であり、端末処理の状況をしめす。保持部材10bの端末は、通常は巻きつけるのみであるが、安全のために、スリーブで保護することもある。端末をまきつけた後、スリーブ10cで、被覆して、圧縮又は熱収縮によって被覆処理する。

【0019】図8によって、請求項3を詳述する。図8は、前記錘体(マグネット付)9又は10を、チチ6に挿貫した状態をしめす。幟旗の総組立に先立って、錘部材(マグネット)9a1,又は10a1をチチ6の形成する輪部6bに挿貫しておく。縦竿2をチチに通し、幟旗が完成したときには、チチ6の形成する輪部6bと縦竿2の隙間から、錘部材(マグネット)9a1又は10a1は外れることはないので、錘部材(マグネット)9a1又は10a1の脱落、盗難、いたずらの被害を防ぐことが出来る。また、請求項1に記載の幟旗が、風に煽られても、錘体(マグネット付)の自重によって、幟旗体の捲き上がりを防いでいる。

【0020】

【発明の効果】請求項1の発明の第1の効果は、幟旗体の内側縁の上部が筒状に縫製され、この側縁筒状部に縦竿を挿通しているので、強風に煽られても、見苦しく捲きあがることはない。第2の効果は、内側縁の下部の非筒状部にチチを設け、錘体(吊り輪付)を前記チチに付

加してあるので、幟旗体は、その錘の自重によって巻き上がらない。また、錘体（吊り輪付）の輪部にチチを通すので、使用中錘体（吊り輪付）が外れることがなく、飛散及び盗難の恐れもない。また、請求項2の発明は、錘体（吊り輪付）に緩衝部を設けたので、幟旗を使用中に、錘が振れることによって、人や、商品を損傷することはない。また、請求項3の発明は、マグネットの自重で捲き上がりを防ぎ、かつ錘体の脱落を防いでいる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による、錘体（吊り輪付）を装着した幟旗の斜視図である。

【図2】本発明を、各種の幟旗体に適用した幟旗の部分図である。

【図3】錘体（吊り輪付）の正面図及び断面図である。

【図4】図1のB部の拡大図であって、チチを、輪部に、遊戻した図である。

【図5】本発明による、錘体（マグネット付）を装着した幟旗の斜視図である。

【図6】錘体（マグネット付）の斜視図である。

【図7】図6の部分側面図であり、錘部材（マグネット）を保持部材に接着又は固着した状態を示す。

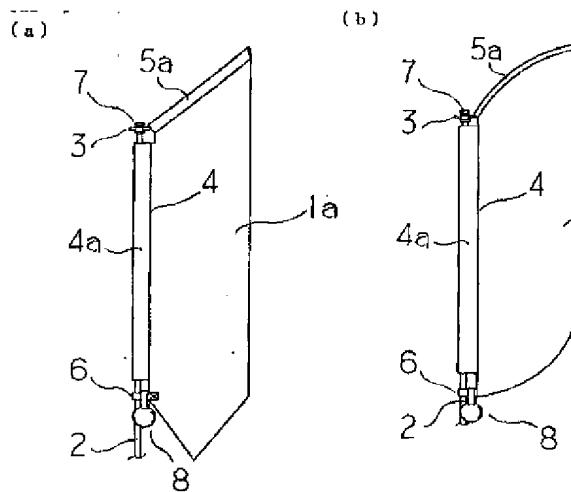
【図8】図5のC部の拡大図であって、錘体（マグネット付）を、チチに挿貫した説明図である。

【符号の説明】

A 楓旗

B C.Aの一部分

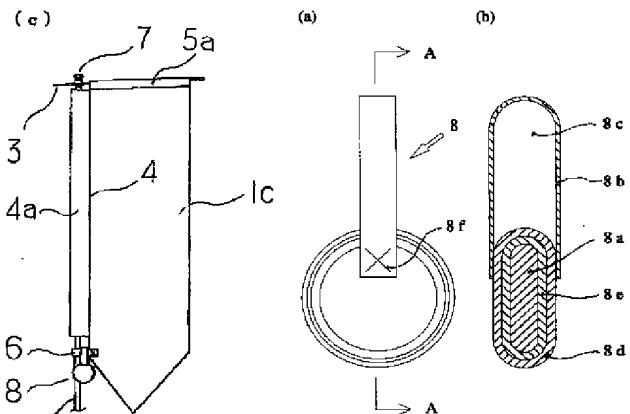
【図2】



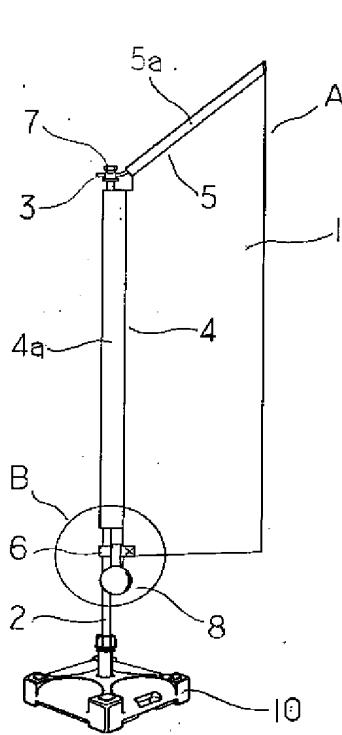
(4)

1 楓旗体
2 縦竿
3 横竿
4 内側縁部
4 a 側縁筒状部
5 上縁部
5 a 上縁筒状部
6 チチ
6 a 保持部材（吊り輪）8 b を貫通したチチ
6 b チチ6の輪部
7 係止金具
8 錘体（吊り輪付）
8 a 錘部材
8 b 連結具（吊り輪）
8 c 輪部
8 d 包装部
8 e 緩衝部
8 f 縫着部分
9, 10 錘体（マグネット付）
9 a, 10 a 錘部材（マグネット）
9 b 保持部材（帯材）
9 c 接着剤
10 b 保持部材（鋼線材）
10 c スリーブ
11 台座

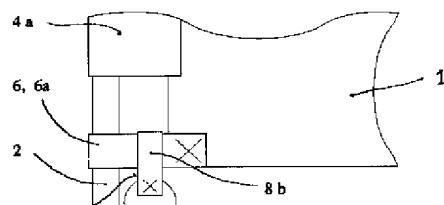
【図3】



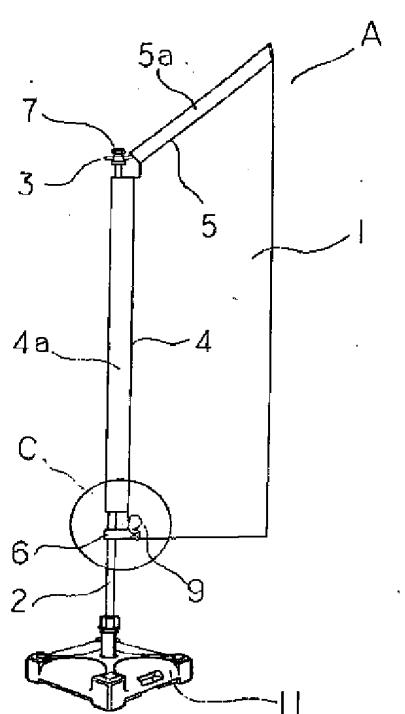
【図1】



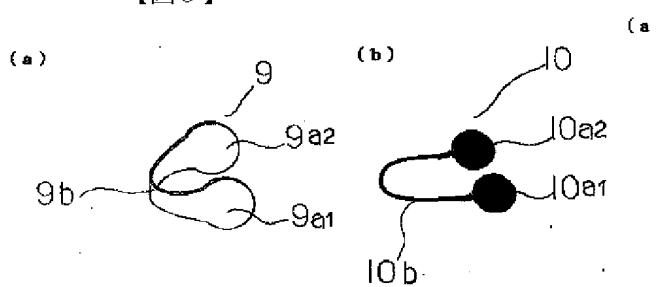
【図4】



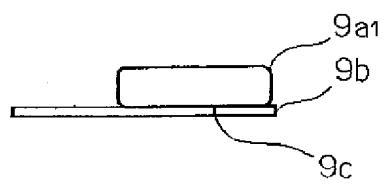
【図5】



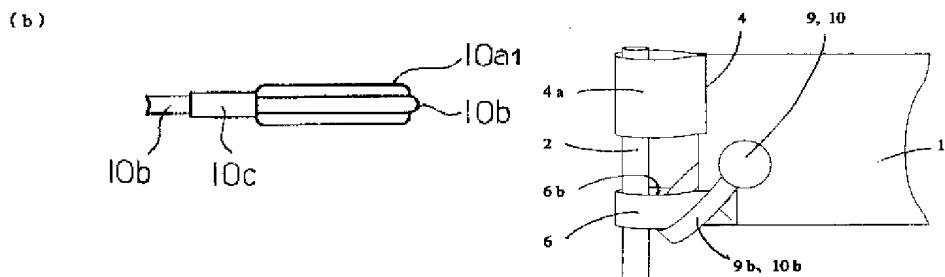
【図6】



【図7】



【図8】



PAT-NO: JP02003036043A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003036043 A
TITLE: BANNER FLAG
PUBN-DATE: February 7, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SUZUKI, YOSHIE	N/A
TAWARA, ISAO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TAHARAYA:KK	N/A

APPL-NO: JP2001224602
APPL-DATE: July 25, 2001

INT-CL (IPC): G09F017/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a banner flag, preventing a flag main body from soaring up when fanned by wind and capable of being easily assembled.

SOLUTION: The side edge part 4 of a flag main body 1 is cylindrically sawed, thus forming a cylindrical side edge part 4a, which a flag pole 2 is fitted into, so that the flag main body 1 is

not unsightly soared up when fanned by wind. Further, a conical body (with a hanging ring) 8 is fixed to the breast part of the flag main body 1 and the self-weight of the conical body prevents the flag main body from soaring up. The breast part 6 is fitted into the ring part 8c of the conical body (with the hanging ring) 8, so that the conical body (with the hanging ring) 8 is not released during use and is free from scattering and robbery. A cushioning body is formed on the conical body (with the hanging ring) 8, which conical body does not damage a man or commodity while the banner flag is being used. The self-weight of a magnet prevents the soaring of the flag main body and prevents the conical body from falling off as well.

COPYRIGHT: (C) 2003, JPO